

令和3年3月31日

研究開発完了報告書

文部科学省初等中等教育局長 殿

住所 福井県福井市大手3丁目17番1号
管理機関名 福井県教育委員会
代表者名 教育長 豊北 欽一

令和2年度地域との協働による高等学校教育改革推進事業に係る研究開発完了報告書を、下記により提出します。

記

1 事業の実施期間

2020年5月25日（契約締結日） ～ 2021年3月31日

2 指定校名・類型

学校名 福井県立三国高等学校
学校長名 上山 康一郎
類型 地域魅力化型

3 研究開発名

「あったらいいね」をカタチにする！
～ シビックプライドを持ったコミュニティデザイナーを育てる ～

4 研究開発概要

本校では、令和2年度からの新教育目標を「高い志を持って自律的に行動し、地域や社会の発展に貢献できる人を育成する」と定めた。これに基づき、地域との協働による高等学校教育改革推進事業においては、「地域とともにある学校」として、地域にある資源を活用して地域活性化に資するプロジェクトを地域人材と協働で実施することを通して、当事者意識を持って地域の未来を創造することのできる人材を育成する実践的な探究学習のためのカリキュラムを開発する。

5 学校設定教科・科目の開設，教育課程の特例の活用の有無

- ・学校設定教科・科目 開設している ・ 開設していない
- ・教育課程の特例の活用 活用している ・ 活用していない

※学校設定科目は令和3年度より開設

6 運営指導委員会の体制

氏名	所属・職	備考
松田 淑子	金沢大学大学院教職実践研究科・教授	学校教育、探究学習
大森 昭生	共愛学園前橋国際大学・学長	学校教育、地域協働プログラム
川元 利夫	坂井市教育委員会・教育長	関係行政機関
峠岡 伸行	福井県経営者協会・専務理事	企業支援、人材育成

7 高等学校と地域との協働によるコンソーシアムの体制

機関名	機関の代表者
福井大学地域創生推進本部	末 信一朗（本部長）
福井工業大学環境情報学部デザイン学科	矢部 希見子（学部長）
仁愛女子短期大学生生活科学学科	禿 正宣（学長）
東京都市大学建築都市デザイン学部	三木 千壽（学長）
坂井市議会	古屋 信二（議長）
坂井市総合政策部企画情報課	坂本 憲男（市長）
坂井市総合政策部まちづくり推進課	坂本 憲男（市長）
アーバンデザインセンター坂井（UDCS）	西村 幸夫（センター長）
あわら坂井ふるさと創造推進協議会（アズAS）	佐々木 康男（会長・あわら市長）
地域企業（IIOプロデュース株式会社等）	伊藤 俊輔（IIO代表取締役社長）
雄鳥地区まちづくり協議会	鹿島 潤司（会長）
一般社団法人三國會所	半澤 政丈（会長）
三国本町商店会	谷下 栄一（理事長）
三国高校同窓会	大和 久米登（会長）
三国高校PTA	北村 辰一（会長）

8 カリキュラム開発専門家，海外交流アドバイザー，地域協働学習支援員

分類	氏名	所属・職	雇用形態
カリキュラム開発専門家	石川 一郎	聖トミコ学園・カリキュラムマネージャー	雇用関係なし
地域協働学習支援員	澤崎 敏文	仁愛女子短期大学・准教授	雇用関係なし
地域協働学習支援員	川上 貴義	福井銀行三国支店・支店長	雇用関係なし

9 管理機関の取組・支援実績

(1) 実施日程

業務項目	実施日程									
	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
運営指導委員会					1回				1回	
連携締結						1回				

(2) 実績の説明

- ・継続的な取組を行うための教員の人事面の配慮として、加配の計画
- ・運営指導委員会の運営および指導・助言

- ・地域人材の継続的な連携の支援および3者相互連携の強化
- ・三国高校とアーバンデザインセンター坂井の間に相互連携協定締結

10 研究開発の実績

(1) 実施日程

業務項目	実施日程									
	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
コミュニティデザイナー認定									1回	1回
教科探究学習					3回	1回		1回	2回	
総合探究発表会						1回	2回		1回	
地域探究同好会 ワクワク未来考場	3回	1回	6回	2回	5回	3回	2回			3回

(2) 実績の説明

①研究開発の内容や地域課題研究の内容について

(ア) コミュニティデザイナーの認定

本校では生徒が三国という地域の住民としての意識を持って、地域の未来を創造することのできる実践的な探究学習に取り組むことで、この地域の将来の地域人材として活躍するという意識を持ったコミュニティデザイナーの資格認定制度の開発に取り組む。今年度の活動を総合的に評価し3年生は2月、1、2年生は3月に認定を実施した。

(イ) 教科探究学習

国語科による三国龍翔館前館長を招いての「三国の文学」についての授業を、2月上旬に2回、2年文Ⅱ系列クラスに実施した。

理科による地元企業を招いての「電池のしくみ（酸化還元）」授業を、11月に2年理Ⅰ系列クラスに実施した。また、10月に越前松島水族館館長による「海洋生物の調査保護」の講義授業と水族館の現地調査を3年理系生物選択者に対して実施した。

家庭科による「三国の伝統文化（刺し子）」の授業を、10月に3年文Ⅱ系列の服飾文化選択者に対して実施した。また、「雄島海女の素潜り漁と加工技術」の授業を、1月に2年文Ⅱ系列のフードデザイン選択者に対して実施した。

(ウ) 総合探究発表会

総合的な探究の時間での各学年の取り組みを「三高地域魅力化プロジェクト」という名称で統一することにした。

1年生では三国町内の空き家活用プロジェクトを企画立案し、2学期末に実際の空き家を使って地域住民に活用方法を紹介する活動に取り組んだ。今年度は11月中旬にコンソーシアム団体のアーバンデザインセンター坂井（UDCS）とあわら坂井ふるさと創造推進協議会（アズAS）の参加をいただき、生徒の考えた空き家活用アイデアコンペを実施した。また、12月下旬には4クラスがそれぞれ1つの空き

家を使い、自分たちの考えた活用方法を実践した。

2年生では地域の様々な問題について探究し、問題の解決方法を地元公共団体に提言する取り組みを行った。今年度は12月に坂井市市役所職員と福井大学・福井工業大学の学生のアドバイザーに参加いただき、中間発表会を実施した。また、2月は坂井市市議会議員と市役所職員に参加いただき、本番の発表会を実施した。さらに、2年生の一部グループは福井県立武生高校SSH交流会に参加し発表した。

3年生では2年次までのプロジェクトの成果を研究レポートにまとめた。

(エ) 地域探究同好会の活動

本年度から地域との協働活動をする生徒の組織として地域探究同好会を設立し、三国町の空き家のひとつの「吉野家」を拠点として活動を行った。

6月には拠点となる吉野家の清掃と今後の活動を考える会議を実施した。7月には吉野家の中庭整備を行った。

8月になり雄島地区まちづくり協議会主催の「海からのおくりもの」イベントの同好会企画会議を5回実施した。また、三国で空き家活用を実践している東京大学と東京都市大学の研究者および大学生と連携するオンライン会議を実施した。

9月と10月には吉野家の修繕について地元業者と会議を持ち、10月下旬に開催される「三國湊フェア」参加のために地元団体との会議や準備を協働で行った。

また、同時に10月中旬には坂井市役所からの要請で坂井市SDGsキャッチフレーズを考える企画に参加し、11月には三国の地域デザインを研究している福井工業大学の大学院生と共に、三国を印象付ける言葉を探すコトバワークを実施した。

12月中旬に実施した吉野家リフォームのために、地元の建具店と製畳所を事前見学し、リフォーム当日は瓦屋根の修繕も含めて地元業者との修繕活動を行った。

(オ) ワクワク未来考場の推進

地域住民と三国高校生が地域の未来について懇談する場、「ワクワク未来考場」を実施した。8月中旬に開催された雄島地区まちづくり協議会主催の「海からのおくりもの」企画会議に参加し、三国サンセットビーチの今後の在り方の議論に参加した。10月の「三國湊フェア」の開催では、いろいろな準備を通して本町商店会・三國會所の方々との地元イベントを通じた町の活性化について考えた。

また、吉野家を拠点に空き家活用の提案をすることで、地域住民の方々との交流の機会を持つことができた。

②地域との協働による探究的な学びを実現する学習内容の教育課程内における位置付けについて（各教科・科目や総合的な学習（探究）の時間、学校設定教科・科目等）

(ア) 各教科・科目

地域人材を活用した授業を各教科の授業で取り込む。

(イ) 三高地域魅力化プロジェクト

- ・1年次に総合的な探究の時間において、三国の地域課題を学ぶ活動を通して得た知識を活かして、三国の空き家活用を実践する取り組みを行う。
- ・2年次に総合的な探究の時間において、地域の様々な課題について、コンソーシアム団体の協力を得ながら提言案をまとめ、坂井市市議会議員に提言案を説明する。

(ウ) 三国地域学

令和3年度より2年生から段階的に学校設定科目「三国地域学」を開設し、各教科

との関連を深めていく。

- ③地域との協働による探究的な学びを取り入れた各科目等における学習を相互に関連させ、教科等横断的な学習とする取組について
 - ・次年度からの学校設定科目「三国地域学」で各教科を横断した探究的な学びを進める。
- ④地域との協働による探究的な学びを実現するためのカリキュラム・マネジメントの推進体制について
 - (ア) 地域協働プロジェクト推進室
校長，教頭，教務主任および事務局 6 名の推進室を設置する。
 - (イ) コンソーシアム団体との連携
推進室が総合的な探究の時間の企画，令和 3 年度からの学校設定科目の企画開発，地域探究同好会の活動計画の立案および地域協働学習実施支援員と協力して、各コンソーシアム団体との連絡調整を行う。
- ⑤学校全体の研究開発体制について（教師の役割、それを支援する体制について）
 - (ア) 三高地域魅力化プロジェクト
各学年会の教員が中心になって運営し、それぞれの事業でそれぞれのコンソーシアム団体と連携協働し、プロジェクトを推進する。
 - (イ) 地域探究同好会
担当教員 3 名で拠点となる空き家を活用し、地域住民との交流事業を推進する。
- ⑥カリキュラム開発等専門家、海外交流アドバイザー及び地域協働学習実施支援員の学校内における位置づけについて
 - (ア) カリキュラム開発等専門家
令和 3 年度より実施する三国地域学の科目の一つである「三国文化資源探究」について、実施方法や各教科の横断的な学習の進め方についてアドバイスを受ける。
 - (イ) 地域協働学習実施支援員
三高地域魅力化プロジェクトでの 1 年生の「空き家活用プロジェクト」や 2 年生の「地域問題探究と提言」に関して、各コンソーシアム団体との連絡調整を行う。
- ⑦学校長の下で、研究開発の進捗管理を行い、定期的な確認や成果の検証・評価等を通じ、計画・方法を改善していく仕組みについて
 - (ア) 教員研修会
外部有識者（運営指導委員，カリキュラム開発専門家）による総合探究の意義や、カリキュラムマネジメントの研修会を実施。
 - (イ) 職員協議会
地域協働プロジェクト推進室会議を定期的に行い、進捗の共有を行う。また、職員協議会で取り組みの進捗状況を報告し、取り組みの共有と課題の把握をする。
- ⑧カリキュラム開発に対するコンソーシアムにおける取組について
 - (ア) 三国地域魅力化プロジェクト

1年生は東京都市大学建築都市デザイン学部およびアーバンデザインセンター坂井との協働を中心に事業を推進する。

2年生は東京都市大学建築都市デザイン学部、福井大学地域創生推進本部、福井工業大学環境情報学部および坂井市役所との協働によって事業を推進する。

3年生は研究レポートのまとめのため、レポート作成の方法を学ぶ。

(イ) 三国地域学

令和3年度からの実施に向け、カリキュラム開発専門家のアドバイスを受けて、地元企業や地元関係団体との連携を交渉中である。

⑨運営指導委員会等、取り組みに対する指導助言等に関する専門家からの支援について

- ・令和2年度の総合探究活動での取り組みを振り返り、活動の内容をより深めるために、令和3年度からの学校設定科目「三国地域学」に対する取り組みの重要性の指摘を受け、坂井市からの援助を受けて本校独自の支援員を配置する予定。

⑩類型毎の趣旨に応じた取組について（令和3年度より）

(ア) 三国の文化資源探究

国語科、地歴公民科、英語科、芸術科、家庭科の教員が協力し、三国の伝統・文化・文学・芸術・歴史・食文化等について探究学習を実施する。

(イ) 三国の環境資源探究

理科、数学科、体育科の教員が協力し、三国の海の保全・ごみ問題・海洋生物・エネルギー生産・浄水処理等について探究学習を実施する。

⑪成果の普及方法・実績について

(ア) 研究報告書

令和2年度の研究開発実践について研究報告書を作成し、関係のコンソーシアム団体や協力者に配布する。

(イ) 三高地域魅力化プロジェクト報告書

2年生で実施した地域の様々な問題に関するグループ別の提言書を、研究レポートとしてまとめた報告書を発行する。また、生徒や関係のコンソーシアム団体の協力者に配布する。

(ウ) 広報活動

学校のホームページに様々な活動を掲載し発信する。また広報誌「三高ニュース」を発行し、地元中学校に配付する。

1.1 目標の進捗状況、成果、評価

(1) 高校魅力化評価システムより

高校魅力化評価システムの組織診断ポートフォリオによるアンケートの集計結果から、本校生徒の結果と他地域の結果との差が5%以上大きい項目と5%以上小さい項目を抽出すると以下ようになった。

項 目	本 校	他地域との差
活動、学習のまとめを発表する	60.6%	- 6.69%

地域の魅力や資源について考える	66.3	+11.24
地域の課題や解決方法について考える	70.0	+14.19
日本や世界の課題の解決法について考える	38.6	-12.52
地域の人や課題などにじかに触れる機会がある	71.5	+5.62
私は、自分自身に満足している	55.9	+5.49
目標を設定し、確実に行動することができる	68.1	+5.15
自分で計画を立てて活動することができる	70.3	+6.80
友達の前で自分の意見を発表することは得意だ	64.4	+7.52
家や寮で、誰かに言われなくても自分から勉強する	73.3	+7.78
地域を対象とした課題探究学習に熱心に取り組んでいる	62.9	+7.38
勉強したものを実際に応用してみる	68.3	+5.59
自分の将来について明るい希望を持っている	76.5	+5.05
授業で分からないことを、自分から質問したり、分かる人に聞いた	80.4	+5.55
授業で興味・関心を持った内容について、自主的に調べ物を行った	65.8	+10.63
授業で「なぜそうなるのか」と疑問を持って、考えたり調べたりした	69.1	+6.51
公式やきまりを習う時、その根拠を自分で考えたり調べたりした	65.3	+6.31
いま住んでいる地域の行事に参加した	43.1	+6.76
地域社会などでボランティア活動に参加した	47.3	+12.63

アンケートには全部で74個の項目がある。本校の生徒と他地域との結果の差が5%以上大きい項目は17個あり、他地域との差が5%以上小さい項目は「活動、学習のまとめを発表する」「日本や世界の課題の解決法について考える」の2個の項目であった。福井県の坂井市という地方の小さな町であるが、生徒は中学校から地域についての調べ学習に慣れ親しんでいる上、本校に入学してから総合探究活動での「三高地域魅力化プロジェクト」等で、様々な地域探究活動に取り組んでいる結果と思われる。来年度以降は発表の機会を増やし、日本全体や世界にも目を向けられるような取り組みを進める必要がある。

(2) 目標設定シート

目標設定シートに関する項目については、2月に本校独自のアンケートを実施し、以下の項目について分析を行った。

①本構想において実現する成果目標の設定（アウトカム）

(ア) 「三国高校コミュニティデザイナー」等の認定を受けた生徒の割合を最終年次30%とする。

三国高校では3年前より総合探究活動として、1年生は三国の空き家活用に取り組んでいる。また、2年生は坂井市の地域活性化の提言をする取り組みを行っている。

当初は上記の資格認定を、三高地域魅力化プロジェクトを実践した生徒全員に与えよ

うと考えていたが、活動をしていく中で、特に顕著な活動をした生徒に対して「コミュニティデザイナー」の資格を与えるように変更した。

今年度は2年生については、2月に行われた研究成果の発表会を行ったときに、坂井市の議員・職員にループリック形式のアンケートをしていただき、その中から優秀な生徒19名を選んだ。3年生については、1・2年次に総合探究活動を積極的に行い、地域探究同好会の部長・副部長をつとめて同好会の活動を引っ張り、地域住民との交流の場である「ワクワク未来考場」の行事にも参加した2人を選んだ。認定を受けた生徒の割合は、全校生徒の中の4.9%であった。

「コミュニティデザイナー」の資格認定には2回の運営指導委員会の中でも様々な議論があった。外部人材の意見だけでなく、自己評価をもっと工夫して生徒自身が「自分は積極的に探究活動に取り組んできた」と考える生徒に与える資格にするべきだという助言もいただいた。今後、議論を深めて資格認定の条件を研究していく必要がある。

(イ) 就職志望者のうち県内に就職する生徒の割合を95%以上、進学志望者のうち将来県内での就職を希望する生徒の割合を80%以上とする。

就職を希望している生徒のうち、福井県で就職したいと思っている生徒と3年生で福井県の会社または地方公共団体に就職の内定をもらっている割合は、89%で初年度の目標(85%)を上回っている。1年生の就職希望者は7名でそのうち福井県で就職したいと考えている生徒は全員で割合は100%である。2年生の就職希望者は18名でそのうち福井県で就職したいと思っている生徒は14名で割合は78%である。3年生の就職希望者は22名でそのうち福井県で就職が決定している生徒は21名であり、割合は95%であった。

大学・短大・専門学校などの進学志望者のうち将来県内での就職を希望する生徒の割合は63%で初年度の目標(60%)を達成している。1年生の進学希望者は99名で、そのうち将来は福井県で就職したいと思っている生徒は71名で割合は72%である。2年生の進学希望者は113名で、そのうち将来は福井県で就職したいと思っている生徒は72名で割合は64%である。3年生の進学希望者は142名で、そのうち将来は福井県で就職したいと思っている生徒は79名で割合は56%である。

(ウ) アンケートで「ふるさとに対する愛着が深まった」と回答する生徒の割合を90%とする。

アンケートで「ふるさとに対する愛着が深まった」と回答する生徒の割合は82%で初年度の目標(70%)を達成している。1年生で「ふるさとに対する愛着が深まった」と回答する生徒の割合は88%、2年生で「ふるさとに対する愛着が深まった」と回答する生徒の割合は76%、3年生で「ふるさとに対する愛着が深まった」と回答する生徒の割合は83%であった。

②地域人材を育成する高校としての活動指標

(ア) 三高地域魅力化プロジェクトの実施回数を最終年次20回とする。

初年度目標 10回

1、2年ともにプロジェクトを進めるにあたりコンソーシアム関係者の協力をいただくのにオンライン形式での講義やアドバイスを受ける機会が多かった。1年生ではオンライン講義3回とアイデアコンペ1回、空き家活用プロジェクト本番1回を実施、2年生ではガイダンス講義1回とオンライン講義2回、中間発表会1回、本番発表会1回を

実施した。合計10回であった。

(イ) 県内外における合同発表会・研究報告会等への参加回数を最終年次8回とする。

初年度目標 4回

今年はコロナの影響で他県への訪問は全くできなかった。生徒の発表会参加が1回、教員のみが参加した発表会が3回である。県内のみで合計4回の参加。

③地域人材を育成する地域としての活動指標

(ア) 三高地域魅力化プロジェクトや地域における活動に参画する外部人材の延べ人数を最終年100人とする。

初年度目標 50人

- ・コンソーシアム打ち合わせ会議・・・延べ7名
 - ・三高地域魅力化プロジェクト・・・(1年)延べ12名 (2年)延べ34名
 - ・教科探究学習・・・(国語)2名(理科)5名(家庭科)3名
- 合計延べ人数63名

<添付資料>目標設定シート (別紙)

1.2 次年度以降の課題及び改善点

(1) 三高地域魅力化プロジェクト

今年度の発表会については、1年生では10月の空き家活用プロジェクトのアイデアコンペ大会や12月の空き家活用プロジェクト本番を実施し、2年生は12月の中間発表会を実施し、2月の本番発表会で外部の関係者の前での発表を行うが、生徒にとっては発表の機会がまだ少ない。来年度以降はより頻繁に人前での発表の機会を作る必要がある。

(2) 地域探究同好会

様々な地域の方とのイベント事業を行うことができ、地域との交流活動が深まってきているが、活動の拠点となる空き家の「吉野家」は、今年度は修繕をすることに重点が置かれた。地域住民を招いての交流は12月の「空き家活用プロジェクト」と3月の地域の小中学生を招待した「吉野家スプリングイベント」のみであった。来年度からは本格的に吉野家での交流事業を進めていきたい。

(3) 三国高校コミュニティデザイナーの資格認定

本校独自のコミュニティデザイナーの資格認定に際して、1年目の今年度は認定した生徒が少数になった。来年度は認定条件を地域協働プロジェクト推進室と外部関係者や生徒の代表が議論し、客観性を持ち多くの生徒が資格認定できる制度として構築していく必要がある。

【担当者】

担当課	福井県教育庁高校教育課	T E L	0776-20-0568
氏 名	前田 周子	F A X	0776-20-0669
職 名	高校教育課 主任	e-mail	s-maeda-jd@pref.fukui.lg.jp